



CSたより

コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールたより 令和5年2月発行

4号

2月に入り暦の上では立春が過ぎましたが、その後、雪の降りと寒さに備える日々が数日続き、北陸の天候の厳しさを改めて感じ入っていました。しかし、この頃の天候はとても穏やかな日が続き、過ごしやすい日となっています。さて、今回はCSたよりの3号でお知らせいたしました**文部科学大臣表彰**についてお伝えいたします。

県内初の文部科学大臣表彰を受彰！



〈文部科学省での表彰式〉

2月3日（金）に、文部科学省3階講堂において**文部科学大臣表彰**の表彰式が行われました。この授賞式には、朝日町学校運営協議会 会長 南茂敬子さんと総括的な地域学校協働活動推進員の深松茂さんが出席し、栄えある賞をいただきました。

この賞は、本年度設けられた新規の大臣表彰で、朝日町の3つの小中学校とPTAなどが連携して学校運営や地域教育の在り方を話し合う**学校運営協議会**と地域住民や企業などで作る**地域学校協働本部**の一体的な取組で、県内では初めての受彰となります。

朝日町では、「ふるさと教育」で地域の人材を積極的に活用するなど地域と学校が一体となった運営を進め、教員の働き方改革につなげたことが評価されました。

具体的な取組として、朝日町では、県内自治体に先駆け、退職教員による放課後学習指導や外部人材による部活動指導など、学校運営に地域住民が関わる仕組みを取り入れてきました。本年度は7つの運動部と吹奏楽部で地域移行を行っています。登下校の管理や「14歳の挑戦」など一部行事の連絡調整も住民が主体的に担い、教員は授業や面談など本業に専念できるようになりました。また、小中学校の下校時刻も繰り上げし、教員の長時間勤務解消につなげました。保小中一貫教育も本年度よりスタートするとともに、町独自の教科「ふるさと科」を設け、郷土愛の育成に取り組みました。



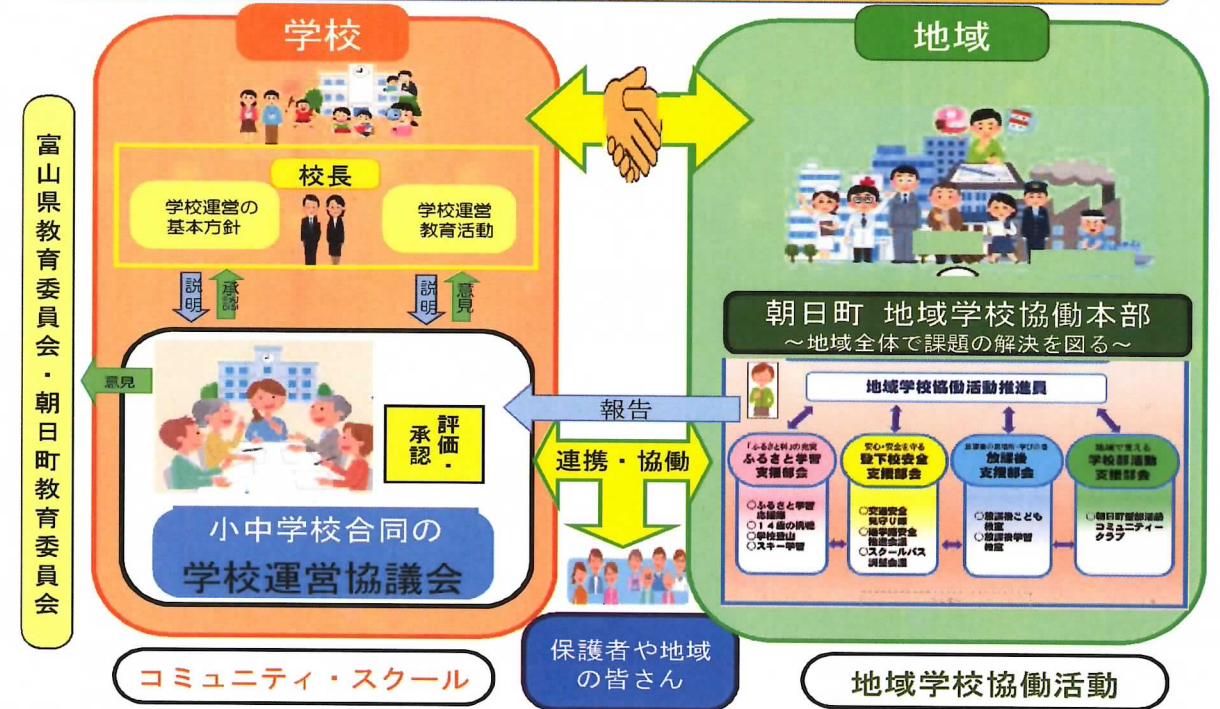
〈2/7、笹原町長への報告会〉

木村博明教育長は「受彰を新たなスタートとし、今後も学校と地域が一体となって取り組みたい」と話しています。

地域学校協働本部（朝日町教育センター内）
電話・FAX: 83-0279 担当 山崎
Email: asahi.chiikigakkoukyoudouhonbu@gmail.com



朝日町型 地域パートナー学校支援モデル コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進



「ふるさと科」(昨年の実践で紹介できなかったものの一部です。)



地域の偉人 宮崎太郎

7月13日（水）に、あさひ野小学校の6年生を対象に「朝日町の歴史を学ぶ会」の方々から、宮崎太郎のことを学びました。宮崎太郎は、その名のとおり朝日町の宮崎城に住んでいた越中の武将です。時代は平安時代末期で、都に上った木曾義仲に従いました。倶利伽羅峠の戦い（源氏が平氏に勝利）では、勝敗の決め手となった山岳夜襲戦法（牛の角に松明を括り付け、敵に突進させ勝利したことで有名）を木曾義仲に献策したといわれています。



ヤギへのえさやり

6月27日（月）に、さみさと小学校の3年生が夢創塾に行きました。そこで、たくさんの自然体験（イワナへのえさやり、ツリーハウス体験、塩づくり体験、自然物を使った遊び）をしてきました。また、そこで飼われているヤギにえさをやるという初めての経験もしました。昔は、ヤギの飼育が生活の一つとなっていました。今は、そのヤギの飼育も家ではしません。昔の生活を知る上でも、夢創塾での経験は非常に貴重なものとなりました。



未来の朝日町を考える

7月15日（金）に、朝日中学の3年生を対象に、**地域おこし協力隊の八巻未来さん**から朝日町の魅力についてお話を聞きました。八巻さんは福島県出身で富山大学を卒業後、ここ朝日町につとめておられます。出身地である福島県と比較して、朝日町の魅力を子供たちに話していただきました。

子供の感想

朝日町は、何もなくて田舎だと思っていました。しかし、県外出身の八巻さんのお話を聞いて、町について考えるきっかけとなりました。これからは、小さなことでも町がよりよくなることを考えていきたいです。